

親鸞聖人 750 回 大遠忌

世のなか 安穩なれ

成川 和行

このたびの親鸞聖人 750 回大遠忌のスローガン「世のなか 安穩なれ」は、親鸞聖人が不安と争いの時代にあって、念仏者の目指す道を示されるなかで述べられた言葉であります。

まさに、戦争への危機感やいのちの軽視、倫理観の欠如などに伴う出来事が相次ぐ現代社会にあって、私たち一人ひとりが自己中心のこころを反省して、同じいのちを生きている相手の存在に気づくことが求められています。自分一人を善として、相手を排除する考え方に真の安らぎはありません。善と悪に固執する偏見を破り、対立の構図を解消できるのは仏の智慧だけあります。

聖人は、仏法がひろまり、世のなか安穩であることを願われました。

そのおこころをいただいて、宗祖の 750 回大遠忌を迎える今、スローガンといたしました。

中央法要事務所内の壁に掲げられているスローガンのパネルに記されている説明文であります。私は、説明文を声に出して読んでみました。聖人のおこころを少しでも多くいただければとの思いがしたからです。

今年 1 月 9 日、御正忌報恩講初日に、大遠忌法要開始までの日数を示すためのカウントダウン電光掲示板の看板設置式が執り行われました。このことが、一段と法要への気運の高まりを感じさせてくれました。ご参拝の節には、御影堂門前左側、さらに安穩殿 3 階をご注目ください。「法要まであと〇〇〇日」と告げています。

中央法要事務所内のパーテーションに目をやると、700 回大遠忌を告げる 2 枚のポスターの複製品が目に入ってきます。50 年前の記憶が断片的に心にうかびます。1961（昭和 36）年当時、私は中学 3 年生でした。ご法要数年前から始まった取り組みですが、「500 円貯金筒（10 円硬貨が 50 枚可能）」を用いて、ご本山へ懇念を納めさせていただこう、との思いを込めて黙々と励んでおられた門徒の皆さんの姿が思い出されます。戦後 16 年しか経過していません。経済は、決して豊かではありませんでした。法要期間中に住職代務をしていました母は、法要の庭儀に出勤した喜びを、参拝していたご門徒に撮っていただいた写真を見せながら、熱く語ってくれました。

光陰矢の如し、早いもので、50 年が経とうとしています。先人が残してくださった法要執行への思いを糧に、スタッフ一同、心に残るご法要を目指し、一日一日を大切に準備に力を尽くしてまいりたいと思います。

ご門主さまは、大谷本廟親鸞聖人 750 回大遠忌法要でのお言葉の中に、〈安穩〉について「世の中が安穩であってほしいというのは、ほとんどの人の願いだと思います。しかし、

願っているだけでは、世の中は安穩になりません。無数の人間が世の中を作っているからです」とお示しく下さいました。ご門主さまのおこころの旨を体して、1 年後にお迎える大遠忌法要が、「伝えよう お念仏の喜びを」との思いのもと、一人でも多くの方にとって、お念仏のみ教えに出遇えてよかったと思っただけの機縁となるよう、創意工夫に努めます。

法要運営に主体的にご門徒の方々に直接加わっていただくことの大切さは、昨年 10 月に修行されました大谷本廟親鸞聖人 750 回大遠忌法要に於ける門徒推進員の皆さんの活躍が物語っております。大遠忌の円成に向けて、共にはたらかせていただきたいと思っております。ご法要への参拝を楽しみにされている方、心待ちに準備をいただいている方もたくさんおられることと存じますが、50 年に一度のご勝縁、皆さま方には、お誘いあわせのうえ、ご参拝いただきますよう、心よりお待ち申しあげております。

ご門主さまは「親鸞聖人 750 回大遠忌についての消息」に、

このご勝縁に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えるとともに、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

とご教示くださいました。そのおことばを心に重くうけとめ、準備に万全を期してまいりたいと存じます。